

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和2年2月19日 午後用

第71回獣医師国家試験 実地試験問題 (D)

注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特
に注意すること。

課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、2歳齢。昨日からの頻回の嘔吐と元気消失を主訴に来院。触診で腹部に疼痛が認められた。血液検査で中等度の脱水所見とクレアチニン値の上昇(2.2 mg/dl)が認められたため、ただちに輸液療法を開始した。〔図1-A〕は腹部超音波検査像、〔図1-B〕は全身麻酔下での口腔内の外貌である。

別冊 D
図 1-A, B

問1 想定すべき最も重篤な続発症はどれか。

1. 舌壊死
2. 食道穿孔
3. 胃食道重積
4. 胃穿孔
5. 小腸穿孔

問2 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 特徴的な超音波所見は腸蠕動による腸の集束により認められる。
- b 消化管穿孔を調べるためバリウム造影検査を行う。
- c 通常舌根の糸を切るだけで治療が完了する。
- d 内視鏡による異物の摘出はほとんど不可能である。
- e 異物を摘出するために腸の複数箇所切開が必要となることがある。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題2 次の文を読み、問3、問4に答えよ。

牛、黒毛和種、去勢雄、肥育用、23か月齢。排尿困難との主訴で往診したところ、食欲および活力減退のほか、少量頻回尿、努責や尾挙上、背弯姿勢などが認められた。〔図2〕は尿沈渣顕微鏡像である。

別冊D

図2

問3 矢印で示すのは何か。

1. 尿細管上皮細胞
2. 尿円柱
3. リン酸アンモニウムマグネシウム結晶
4. シュウ酸カルシウム結晶
5. リン酸カルシウム結晶

問4 この疾患の発症に関与するものとして適切でないのはどれか。

1. カルシウム多給
2. 酸性尿
3. ビタミンA欠乏
4. 飲水量低下
5. 配合飼料多給

課題3 次の文を読み、問5、問6に答えよ。

〔図3〕はある人獣共通感染症の病原体を媒介するベクターの光学顕微鏡像である。

別冊 D
図 3

問5 この感染症はどれか。

1. ツツガムシ病
2. ライム病
3. 野兎病
4. Q熱
5. 発疹チフス

問6 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. 有効なワクチンがある。
2. 我が国では東北地方および関東地方に限局して発生している。
3. 病原体の分離には実験動物あるいは培養細胞を用いる。
4. 第一次世界大戦時にヨーロッパで大流行がみられた。
5. 遊走性紅斑が特徴的な臨床徴候である。

課題4 次の文を読み、問7、問8に答えよ。

犬、ヨークシャー・テリア、去勢雄、11歳齢。発咳および活動性の低下を主訴に来院。〔図4-A〕は胸部X線側方像、〔図4-B〕は超音波ガイド下で行った胸腔内腫瘍の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、×400）である。

別冊D
図4-A, B

問7 最も疑われる疾患はどれか。

1. 悪性黒色腫
2. 肺腺癌
3. 高悪性度リンパ腫
4. 肥満細胞腫
5. 胸腺腫

問8 この疾患に関連した腫瘍随伴症候群として適当なのはどれか。

- a 単クローン性高 γ -グロブリン血症
- b 高カルシウム血症
- c 巨大食道症
- d 消化管潰瘍
- e 低血糖

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

ギンザケ幼魚の尾部に綿毛状の物が付着していた〔図 5 - A〕。〔図 5 - B〕は付着物の顕微鏡像である。

別冊 D
図 5 - A, B

問 9 最も疑われる疾患はどれか。

1. イクチオホヌス症
2. オクロコニス症
3. 水カビ病
4. 真菌性肉芽腫症
5. 内臓真菌症

問10 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 幼魚だけが宿主となる。
- b ブリも宿主となる。
- c 菌糸はしばしば躯幹筋深層まで侵入する。
- d 原因菌は遊走子を産生する。
- e 治療薬としてマラカイトグリーンが推奨されている。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

〔図 6〕は「家畜伝染病予防法」に規定されている牛のある家畜伝染病の年次別発生状況を示している。

別冊 D

図 6

問11 この疾患はどれか。

1. ヨーネ病
2. 結核病
3. 炭疽
4. 伝達性海綿状脳症
5. 流行性脳炎

問12 「家畜伝染病予防法」に定められているこの疾患に対する防疫措置として正しいのはどれか。

1. 患畜を隔離し殺処分する。
2. 患畜および同一農場内の家畜を疑似患畜として全頭殺処分する。
3. 患畜および同一畜舎内の家畜を疑似患畜として全頭殺処分する。
4. 管理者が同一の農場は疫学関連農場として全頭殺処分する。
5. 患畜を隔離して治療する。

課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、未去勢雄、12歳齢。3日前からの食欲低下、元気消失、血尿を主訴に来院。触診で後腹部の圧痛が認められ、全血球計算では好中球数の増加が認められた。〔図7-A〕は腹部X線側方像、〔図7-B〕はX線写真の*部の超音波検査像である。採取した同部位の貯留液は白色混濁液であり、多数の好中球とともに少数の細菌、マクロファージ、上皮細胞が認められた。

別冊 D
図7-A, B

問13 最も疑われる疾患はどれか。

1. 前立腺肥大症
2. 前立腺膿瘍
3. 前立腺嚢胞
4. 気腫性膀胱炎
5. 尿道腫瘍

問14 この疾患に対する治療法として適切でないのはどれか。

1. 抗菌薬の投与
2. 尿道切除
3. 病巣部前立腺実質の搔把
4. 去勢手術
5. 病巣部への大網留置

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

犬、フレンチ・ブルドッグ、去勢雄、7歳齢。3か月前から下痢が認められ、削瘦が顕著になってきたとの主訴で来院。泥状の下痢が1日数回認められるとのことであった。ボディコンディションスコアは1/5でその他の身体検査上の明らかな異常は見られなかった。糞便検査で異常は認められず、血液検査ではアルブミン値2.1 g/dℓであった。〔図8〕は小腸の超音波検査像（横断面）であり、壁の厚さは12 mmであった。

別冊 D

図 8

問15 超音波検査像の所見として適当なのはどれか。

1. 5層構造が消失している。
2. 腸管周辺に液体貯留が認められる。
3. ひも状異物が疑われる。
4. 腸が重積している。
5. 消化管内腔が拡張している。

問16 診断に最も有用と考えられる検査法はどれか。

1. バリウム造影検査
2. 病変部の細針吸引細胞診
3. 糞便細菌培養検査
4. 血清コバラミンおよび葉酸濃度の測定
5. 消化管運動改善薬の試験的投与

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

SPFの肥育豚が42℃の発熱、元気消失、食欲廃絶、呼吸促迫を呈した後、後駆麻痺、遊泳運動などの神経症状を呈した。〔図9-A〕は死亡豚の開腹像、〔図9-B〕はある培地を用いて原因菌を分離した結果の写真である。

別冊D
図9-A, B

問17 原因菌を培養する上で必要ないのはどれか。

1. NAD
2. 黄色ブドウ球菌
3. 血液
4. 5% CO₂
5. 0.1% Tween 80

問18 原因菌の記述として正しいのはどれか。

1. 偏性嫌気性菌である。
2. グラム陽性菌である。
3. 非運動性である。
4. 芽胞を形成する。
5. 単一の血清型である。

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

豚、交雑種、肥育用、雌、90 日齢。急激に消瘦し暗黒色下痢と活力低下を呈した。
〔図 10〕は下痢便の浮遊法による検査像である。

別冊 D

図 10

問19 最も疑われる疾患はどれか。

1. コクシジウム症
2. 豚回虫症
3. 豚肺虫症
4. 腸結節虫症
5. 豚鞭虫症

問20 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 治療および予防にはトルトラズリル製剤が有効である。
- b 肝臓の白斑が認められる。
- c 発酵オガクズ豚舎で多発する。
- d モランテル製剤が予防薬として用いられる。
- e 豚の他にネコ科動物にも感染を引き起こす。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

犬、雑種、避妊雌、2歳齢。腹部をしきりに搔くとの主訴で来院。これまでに皮膚に関するトラブルはなかったとのことである。〔図 11 - A, B〕は腹部の外貌ならびに病変部の拡大像、〔図 11 - C〕は皮膚押捺標本顕微鏡像である（ギムザ染色、×1,000）。

別冊 D
図 11 - A, B, C

問21 最も疑われる疾患はどれか。

1. マラセチア症
2. 上皮向性リンパ腫
3. 落葉状天疱瘡
4. 表在性拡大性膿皮症
5. 皮膚糸状菌症

問22 この疾患に対する初期治療として適切なのはどれか。

- a 免疫抑制量のプレドニゾロンの全身投与
- b セファレキシンの全身投与
- c 病変部の毛刈りとシャンプー
- d イトラコナゾールの全身投与
- e ロムスチンの全身投与

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

犬、トイ・プードル、去勢雄、6歳齢。トリミング中に右後肢をバリカンで損傷後、跛行が続いているとの主訴で来院。〔図 12〕は初診時における症例の右後肢の外貌である。

別冊 D 図 12

問23 どの腱の断裂が最も疑われるか。

1. 膝窩筋腱
2. 長趾伸筋腱
3. 総踵骨腱
4. 外側趾伸筋腱
5. 深趾屈筋腱

問24 断裂した腱の縫合法として最も適切なのはどれか。

1. ギャンビー縫合
2. ロッキングループ縫合
3. クッシング縫合
4. コンネル縫合
5. パーカーカー縫合

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

〔図 13〕はある死亡した馬の剖検時にみつかった寄生虫の頭端拡大像である。

別冊 D 図 13

問25 この寄生虫はどれか。

1. 馬回虫 (*Parascaris equorum*)
2. 馬糸状虫 (*Setaria equina*)
3. 普通円虫 (*Strongylus vulgaris*)
4. 大口馬胃虫 (*Draschia megastoma*)
5. 葉状条虫 (*Anoplocephala perfoliata*)

問26 この寄生虫に特徴的な寄生部位はどこか。

1. 腸間膜動脈内
2. 盲腸回盲部粘膜上
3. 胃壁内
4. 小腸
5. 脳脊髄

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

〔図 14 - A, B, C〕は水道水を対象とした細菌検査である。容器にある試薬と検水を加えて培養し始めた状態が（A）で、培養後の状態が（B）である。（B）に紫外線を照射すると（C）が観察された。

別冊 D 図 14 - A, B, C

問27 （C）で検出されたのはどれか。

1. 一般細菌
2. 従属栄養細菌
3. 大腸菌
4. コレラ菌
5. レジオネラ属菌

問28 この結果から衛生学的に考えられる可能性として最も適切なのはどれか。

1. 消化器系病原細菌の混入
2. 水道原水中の細菌数の増加
3. 浄水施設の細菌学的清浄度の低下
4. 土壌に常在する病原細菌の混入
5. 水道の配水管内に常在する病原細菌の混入

課題15 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、13 歳齢。元気食欲がなく粘膜が白いとの主訴で来院。〔図 15 - A〕は血液検査結果、〔図 15 - B〕は血液塗抹像（ギムザ染色、× 1,000）である。

別冊 D
図 15 - A, B

問29 赤血球に認められる異常は何か。

1. ハイイツ小体
2. ミクロフィラリア感染
3. 標的赤血球
4. バベシア感染
5. ヘモプラズマ感染

問30 この疾患に対する治療薬として最も適切なのはどれか。

1. ジミナゼン
2. イベルメクチン
3. プレドニゾロン
4. シクロスポリン
5. タクロリムス

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

2018 年に我が国のある繁殖豚農場で突然、食欲不振、元気消失、下痢、嘔吐を示し、急性経過で死亡する個体が多発した。蛍光抗体法を用いたウイルス抗原の検出で扁桃凍結切片に〔図 16〕に示すこの疾患に特徴的な抗原が検出された。

別冊 D
図 16

問31 この疾患の急性型に含まれない病理所見はどれか。

1. 腎臓の点状出血
2. 脾臓の出血性梗塞
3. 播種性血管内凝固
4. 泌尿器の炎症
5. 水腫性肺炎

問32 この病原体の検出法である END 法に用いられるウイルスはどれか。

1. 猫汎白血球減少症ウイルス
2. ニューカッスル病ウイルス
3. ボーダー病ウイルス
4. 鶏痘ウイルス
5. 豚サーコウイルス 2 型

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

犬、トイ・プードル、去勢雄、4 歳齢。フローリング床で滑ってから、左後肢を挙上しているとの主訴で来院。〔図 17 - A〕は X 線側方像、〔図 17 - B〕は腹背像である。

別冊 D 図 17 - A, B

問33 股関節脱臼の方向として正しいのはどれか。

1. 尾背側
2. 頭内側
3. 尾外側
4. 頭背側
5. 尾腹側

問34 非観血的整復後に行う外固定法として最も適切なのはどれか。

1. エーマー吊り包帯
2. ホブル（足枷）包帯
3. ロバートジョーンズ包帯
4. スピカ包帯
5. ギプス包帯

課題18 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

犬、雑種、去勢雄、7歳齢。2か月間続く下痢を主訴に来院。食欲や活動性には問題なく、嘔吐や体重減少もなかった。下痢が始まってから排便回数がやや増え、時に粘液が混じるとのことであった。〔図 18〕は糞便の直接塗抹像である（ライト・ギムザ染色、×1,000）。

別冊 D

図 18

問35 最も疑われる疾患はどれか。

1. カンピロバクター症
2. クロストリジウム症
3. パルボウイルス感染症
4. ジアルジア症
5. 鉤虫症

問36 この疾患の病原体に関する記述として適切なのはどれか。

- a 偏性嫌気性菌で芽胞を形成する。
- b 汎白血球減少を引き起こす。
- c ワクチンで予防可能である。
- d 主にノミから感染する。
- e メトロニダゾールやタイロシン投与が有効である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、3か月齢。腹部の膨隆を主訴として診察した。〔図 19〕は症例の外貌である。膨隆部の触診では熱感と疼痛が認められたが、表面は乾燥しており還納性はなかった。1週間経過を観察したが、病変部の大きさに変化はなかった。

別冊 D

図 19

問37 最も疑われる疾患はどれか。

1. 尿膜管開存
2. 皮下血腫
3. 臍ヘルニア
4. 臍炎
5. 腫瘍

問38 この疾患の併発症として特に注意すべきなのはどれか。

- a 肝膿瘍
- b 腸閉塞
- c 横隔膜筋症
- d 直腸脱
- e 関節炎

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

〔図 20〕はある人獣共通感染症をヒトに感染させるおそれが高いことから「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」によって輸入が禁止されている動物である。

別冊 D 図 20

問39 この感染症はどれか。

1. 重症急性呼吸器症候群
2. 重症熱性血小板減少症候群
3. ペスト
4. マールブルグ病
5. デング熱

問40 この感染症が以前、世界的に流行した際に有効であった対策はどれか。

1. ヒトに対するワクチンの使用
2. 野生動物を対象としたサーベイランスの強化
3. 患者の隔離
4. 殺虫剤の噴霧
5. 野生動物に対するワクチンの使用

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、4歳齢。元気がなく、食欲も減少しているとの主訴で来院。体温 39.7℃、呼吸数 24 回 / 分、心拍数 108 回 / 分。両側の手根関節の外反変形が認められた。〔図 21 - A〕は手根関節の X 線頭尾像、〔図 21 - B〕は関節液塗抹像（ギムザ染色、× 400）である。

別冊 D
図 21 - A, B

問41 最も疑われる疾患はどれか。

1. 変形性関節症
2. 関節リウマチ
3. 骨肉腫
4. 特発性多発性関節炎
5. 細菌性関節炎

問42 この疾患に対する治療法として適切なのはどれか。

- a プレドニゾロンの投与
- b メトトレキサートの投与
- c 断脚術
- d ドキソルビシンの投与
- e 抗菌薬の投与

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、去勢雄、7歳齢。最近、頸部が痛そうであまり動かさないとの主訴で来院。〔図 22 - A〕は頸部の MRI 検査像（T₂強調矢状断像）、〔図 22 - B〕は矢印部の横断像である。

別冊 D
図 22 - A, B

問43 最も疑われる疾患はどれか。

1. 椎間板ヘルニア
2. 脊髄腫瘍
3. 椎間板脊椎炎
4. ウォブラー症候群
5. くも膜下嚢胞

問44 本症例に対する手術法として最も適切なのはどれか。

1. 腹側減圧術
2. 椎体牽引固定術
3. 造袋術
4. 椎間孔拡大術
5. 腹側椎体固定術

課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

〔図 23 - A〕はあるカビ毒を産生する真菌の集落、〔図 23 - B〕は分生子の顕微鏡像である。

別冊 D
図 23 - A, B

問45 この真菌の属はどれか。

1. クラドスポリウム属
2. ペニシリウム属
3. フザリウム属
4. ムコール属
5. アスペルギルス属

問46 この真菌が産生するカビ毒はどれか。

- a シトリニン
- b オクラトキシン A
- c アフラトキシン
- d ゼアラレノン
- e パツリン

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

〔図 24〕は牛の胎子失位を示している。

別冊 D 図 24

問47 この失位はどれか。

1. 頭位上胎向
2. 側頭位
3. 尾位側胎向
4. 横背位
5. 縦腹位

問48 この胎子失位の整復に最もよく用いられる器具はどれか。

1. 産科チェーン
2. 胎子捻転器
3. 子宮固定鉗子
4. 線鋸
5. 産科指刀

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、3歳齢。分娩1か月後に食欲不振を主訴として診察を受けた。体温38.8℃、心拍数115回/分、呼吸数36回/分で、下顎と胸垂に浮腫を認めた。心音は微弱であったが心雑音は聴取されなかった。〔図25 - A〕は初診時の血液検査結果、〔図25 - B〕は右側第5肋間からの心エコー図長軸断面像である。

別冊 D

図 25 - A, B

問49 最も疑われる疾患はどれか。

1. 創傷性心膜炎
2. 心内膜炎
3. 後大静脈血栓症
4. 拡張型心筋症
5. 心室中隔欠損

問50 本症例における AST と GGT 活性値異常の原因として最も考えられるのはどれか。

1. 急性肝炎
2. 肝硬変
3. うっ血肝
4. 肝膿瘍
5. 慢性肝炎

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

犬、ボーダー・コリー、避妊雌、11 歳齢。元気食欲の低下を主訴に来院。体温 37.0℃、心拍数 180 回 / 分、呼吸数 45 回 / 分。〔図 26 - A〕は血液検査結果、〔図 26 - B〕は腹部超音波検査像、〔図 26 - C〕は造影 CT 検査像である。

別冊 D 図 26 - A, B, C

問51 本症例で認められる腫瘍の原発臓器として適当なのはどれか。

1. 副腎
2. 脾臓
3. 肝臓
4. 腎臓
5. 腸管

問52 次に行うべき検査として適切でないのはどれか。

1. 血圧測定
2. 血中乳酸値測定
3. 血液ガス分析
4. 凝固線溶系検査
5. 腫瘍のツルーカット生検

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

ニホンジカの肝臓に散在性の白色病巣が認められた。〔図 27 - A〕は病巣を含む肝臓断面の肉眼像、〔図 27 - B〕は病巣辺縁部組織の顕微鏡像（HE 染色）、〔図 27 - C〕は*の領域のワーチン・スターリー染色像である。

別冊 D
図 27 - A, B, C

問53 最も疑われる病原体はどれか。

1. *Corynebacterium pseudotuberculosis*
2. *Mycobacterium bovis* subsp. *bovis*
3. *Aspergillus fumigatus*
4. *Fasciola* sp.
5. *Fusobacterium necrophorum*

問54 この疾患に関する記述として適当なのはどれか。

1. 凝固壊死巣周囲を変性白血球が帯状に囲む。
2. 有隔性の Y 字型に分岐した菌糸体が増殖する。
3. 肺に初感染すると乾酪壊死巣を形成する。
4. 付属リンパ節に同心円状（タマネギ状）の乾酪壊死巣を形成する。
5. 胆管内寄生により胆管炎を起こす。

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

〔図 28〕は、豚とイノシシが感染するウイルス感染症の 2007 年 4 月から 2019 年 6 月までの発生状況を示している。

別冊 D

図 28

問55 この感染症として適当なのはどれか。

1. 豚コレラ（CSF）
2. 口蹄疫
3. アフリカ豚コレラ（ASF）
4. 豚流行性下痢
5. 豚繁殖・呼吸障害症候群

問56 この感染症の原因ウイルスが属するウイルス科はどれか。

1. コロナウイルス
2. アスファウイルス
3. アレナウイルス
4. ピコルナウイルス
5. フラビウイルス

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

犬、雑種、未避妊雌、8 か月齢。避妊手術前の検査で食後の総胆汁酸値とアンモニア値の顕著な上昇を認めた。〔図 29〕は開腹して腸間膜静脈から造影剤を注入した後の腹部 X 線透視腹背像である。

別冊 D

図 29

問57 A の血管は何か。

1. 門脈
2. 後大静脈
3. 大動脈
4. 奇静脈
5. 短絡血管

問58 B を完全結紮後に生じうる合併症として最も注意すべきなのはどれか。

1. 肉芽腫
2. 腎不全
3. 肺水腫
4. 門脈高血圧
5. 気胸

課題30 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

山羊、ザーネン種、雄、5歳齢。頸部の痒み、脱毛及び被毛の汚れを主訴として診察を受けた。同一農家で他の個体にも同様の症状がみられた。〔図 30 - A〕は患部の外貌である。被毛上に動くものがみられたので、実体顕微鏡で観察したところ〔図 30 - B〕が認められた。

別冊 D
図 30 - A, B

問59 観察されたものは何か。

1. シラミ
2. ハジラミ
3. ノミ
4. ツメダニ
5. ヒゼンダニ

問60 この疾患に対する治療に用いられる薬剤はどれか。

- a リンコマイシン
- b ヨード剤
- c ジミナゼン
- d イベルメクチン
- e フルメトリン

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

